26春闘勝利！ 大幅賃上げ！ 港湾を兵站基地にするな！

ユーザーは利益を港湾に還元せよ！ 26春闘中央行動開催

全国港湾と港運同盟は、3月4日（水）から6日（金）にかけて『26春闘勝利・大幅賃上げ！』『ユーザーは利益を港湾に還元せよ！』『港湾を兵站基地にするな！』をスローガンに『26春闘中央行動』を取り組んだ。

この取り組みは、国土交通省、厚生労働省、経済産業省・資源エネルギー庁への行政交渉と日本貿易会、外国船舶協会へのユーザー要請行動の他、JR新橋駅前広場での街頭宣伝行動、千代田区労協の仲間の協力のもと、丸の内デモなどを行い、全国港湾と港運同盟、東京・川崎・横浜港の仲間を招集し、2日間の行動で延べ300名が参加する大規模な行動となった。

中央行動一日目は、4日（水）10時から経済産業省・資源エネルギー庁交渉を行い、13時に国土交通省前に全国港湾・港運同盟の中央執行委員と全国16地区の代表合計80名が参集し、国交省・厚労省交渉前の意思統一集会を開催した。

意思統一集会では主催者を代表し全国港湾内委員長が『24・25春闘で取り組んできた中身を26春闘で具体化していく。そういう意味では、例年以上に極めて重要な26春闘である。各地域では、雇用職域の問題をはじめ、極めて重大な問題が起こっている。本日の行政交渉で全国の仲間の思いや声を行政にぶつけて行こう』と挨拶をした。また、国土交通労組の仲間が行政交渉の激励に来ていただき、挨拶を受けた後、松永委員長代行の『団結万歳』ローニ唱』で国交省交渉・厚労省交渉に臨んだ。

国土交通省交渉は13時30から15時まで行い、その後休憩を挟みながら15時20分から厚生労働省交渉を16時50分まで行った。交渉では、事前に国土交通省・厚生労働省に事前に申し入れ書を手渡して説明していることから、国土交通省・厚生労働省より文書での回答が提示され、その解答に対して組合側が主張や意見を述べて改善を迫る形で行われた。

国交省・厚労省交渉では、各参加者から港湾労働者の厳しい現場の実態や違法状態となっている部分を厳しく追及してきた。

国交省・厚労省ともに具体的な回答を得られなかったものの、我々の主張については受け止める回答も得ることができた。その点では、この回答を具体化させるかどうかは我々の運動にかかってくることだと思う。

そういう意味では26春闘では行政も動かしていく春闘にしなければならないと感じた行政交渉であった。

2日目は8時から定例となっているJR新橋駅前広場で『港湾を戦争に使うな！』『港湾の兵站基地NO！』の横断幕やのぼり旗を使って新橋駅前街宣行動を行い、街宣行動終了後、丸の内周辺デモ行進へと向かった。丸の内周辺デモでは、東京港・川崎港・横浜港・千代田区労協の仲間（約200名）ともに10時に第一生命HDビル前に集合。港湾を利用するユーザーが本社を構える丸の内中通りから経団連のある神田橋公園前までの道のりをデモ行進し、『荷主・ユーザーは巨大な利益を還元せよ！』『港湾を兵站基地にするな！』などのシュプレヒコールをあげながら、通行人や市民に広くアピールしながら行進した。

デモ終了後、参加者は経団連前まで移動し、石橋副委員長先導のもと、シュプレヒコールを行い2日間におよぶ行動を無事に終えた。なお、日程の都合上、外船協への要請行動は5日10時から、日本貿易会への要請行動は6日10時からそれぞれ行っています。

26春闘中央行動を通して、関係省庁や港湾ユーザー、新橋駅前を歩く市民に対し、港湾労働の現状や港湾政策への理解、港湾を兵站基地にさせない平和への思いを広くアピールすることができた。同時に、これまで積み上げてきた運動を26春闘で前進させていかなければならないと強く感じた中央行動であった。

3月4日（第一日目）

3月5日（第二日目）

丸の内から経団連前までデモ行進でアピール！